



第一回学校連携分科会

2025年9月22日

アジェンダ

-
1. 事業概要の振り返り
 2. 学校連携分科会の進め方ご共有
 3. アクションの詳細ご共有
 4. 将来的に目指す姿に関する協議
 5. 令和8年度実施内容に関する協議
-

1. 事業概要の振り返り

若者流出が課題である中、スポーツライミングを一つのコンテンツとしたまちの活性化・若者の誘因を目指し、昨年度に「スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想」を策定しました

本市の目指す姿・課題

龍ヶ崎市が目指す姿

- ✓ 2022年12月に、最上位計画「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030」を策定し、本市のあるべき姿として「**Creation -ともに創るまち・龍ヶ崎-**」を掲げています
- ✓ その中で、本市が抱える課題への的確な対応や、「住み続けたいまち」の構築に向けて、特に重要となる施策を「未来」「魅力」「幸せ」の3つのリーディングプロジェクトとして位置付け、「若者世代の定住促進」や「誰もが楽しめるスポーツ社会の実現」などの施策について、重点的かつ優先的に取組を進めています

課題

- ✓ 人口減少、特に若者の流出が顕著な状況となっており、**大学卒業や就職を機に、特に20代の流出が大きく、直近の令和5年度では、年間200人以上の転出超過**の状況となっています
- ✓ 市街地における人口の空洞化や空地・空家の発生といった「**都市のスポンジ化**」が懸念されており、**人口減少社会に対応した都市構造への転換**が求められています

人口減少社会を受けての若者を呼び込む本市の取り組み

若者を呼び込む取り組み

- ✓ 若者や子育て世代を対象とした移住支援金の交付など**経済的な支援**に取り組んでいます
- ✓ 森林公園のリニューアルや保健福祉棟多世代交流センターの整備など**若者に響く魅力アップ**が進んでいます
- ✓ プロスポーツチームや流通経済大学との連携など、トップアスリートを含めた**高いレベルのスポーツに触れる環境**が整っています

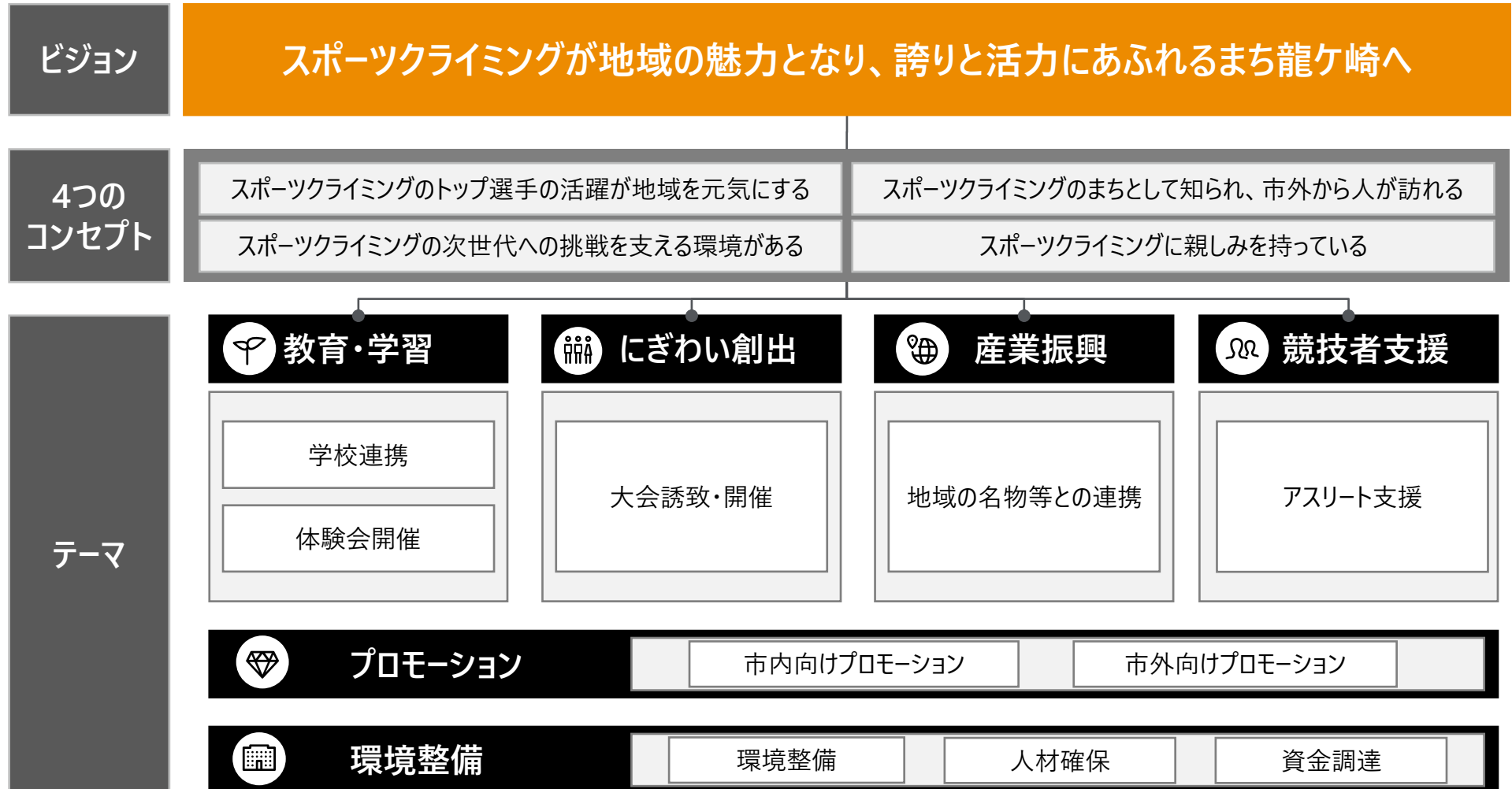
オリンピック、トップクライマーが身近に存在する恵まれた環境が本市にはあります。

そこで、“スポーツライミング”を一つのコンテンツとしてまちを活性化させ、若者を誘引することを目指します

実現に向け、令和6年度に「スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想」を策定

基本構想は、「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の実現に向けたビジョン、コンセプト、テーマに紐づくアクションで構成されています

基本構想の全体像



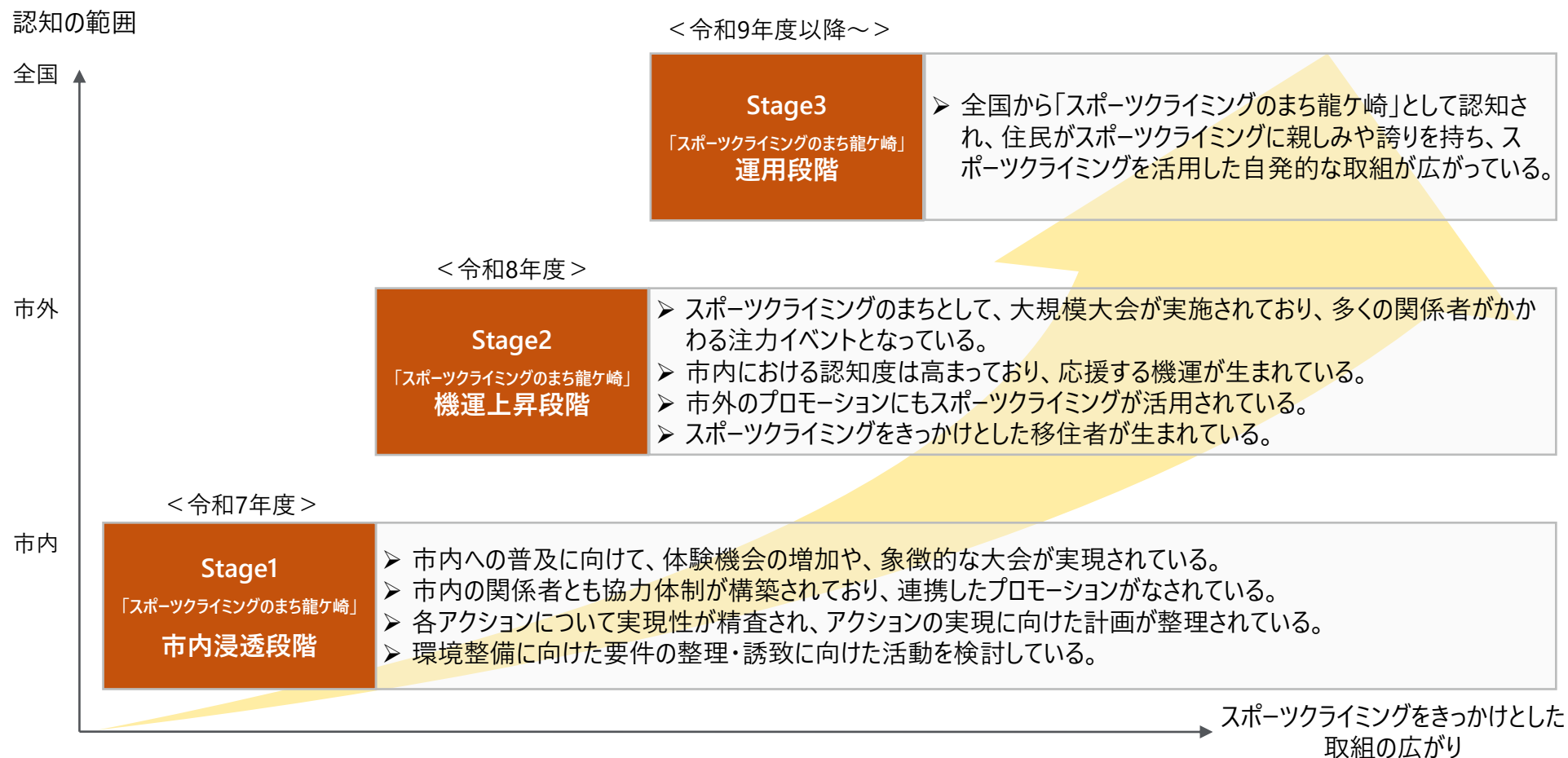
スポーツライミングのまちを推進する上で展開される施策は10のアクションとして整理し、6つの事業テーマに分類されます

事業テーマに紐づくアクション

テーマ	アクション		概要	想定実施時期
①教育・学習	1	学校連携	教育機関等におけるスポーツライミングの体験・学習の機会を創出します。(授業導入・キャリア教育・ウォール設置・定期的な練習会等) 本日はこちら	令和7年度～
	2	体験会開催	幅広い年代が集まる市内のイベントやにぎわいの場と連携し、スポーツライミング体験会を開催します。	令和7年度～
②にぎわい創出	3	大会の誘致・開催	大規模大会（World Cup、JAPAN CUP等）や市民が出場できる大会等の誘致・開催や、スポーツライミングと親和性の高いコンテンツとのかけ合わせイベントを行います。	令和6年度～
③産業振興	4	地域の名物等と連携	にぎわいイベント等を活用した地域の名産品等のプロモーションやスポーツライミングに関連した商品開発を促進します。	令和7年度～
④プロモーション	5	市内向けプロモーション	スポーツライミング推進のシンボルとして、市内活動やイベント、情報発信等に活用可能なコンテンツを作成します。	令和7年度～
	6	市外向けプロモーション	「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」と市の魅力を組み合わせたコンテンツを作成し広く発信します。	令和8年度～
⑤競技者支援	7	アスリート支援	トップ選手や次世代アスリートを対象とした資金・PR・就業等の援助等により、まちづくりにおける連携・協力意向を醸成します。また、市民とアスリートの交流機会を創出します。	令和8年度～
⑥環境整備	8	スポーツライミング環境整備	「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」に必要な環境整備の実現性を検討します。また、本市におけるスポーツライミング競技団体の組織化を目指します。	令和7年度～
	9	人材確保	国の制度等を活用し、「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の持続的な推進に求められる人材を確保します。	令和8年度～
	10	資金調達	「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の持続可能な事業運営に向けた財源確保手法を整理します。	令和7年度～

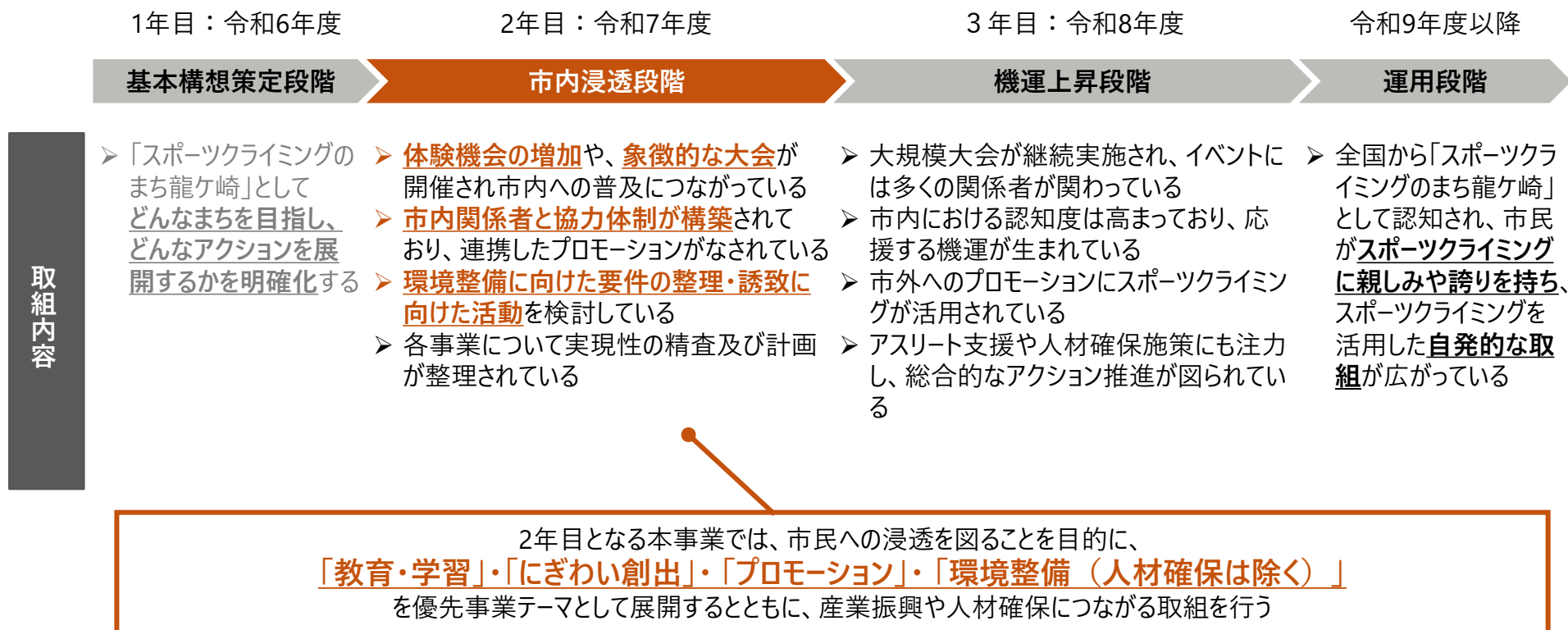
「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の実現は、スポーツライミングに親しむ環境の整備、選手等を応援する機運の醸成、大会等の開催による交流人口増加の3段階で取り組みます

「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」実現に向けた今後の展望



市内浸透段階である今年度では、「教育・学習」・「にぎわい創出」・「プロモーション」・「環境整備（人材確保は除く）」を優先事業テーマとして展開します

今年度事業の位置づけ



2.学校連携分科会の進め方ご共有

「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の実現に向けた事業推進にあたり、全体方針を共有する「官民連携調整会議」と各事業の具体案を検討する「分科会」を設置します

官民連携調整会議／分科会の位置付け

本日はこちら

官民連携調整会議	
事業全体における検討や共有を通して 事業間の連携・調整を図る	
	
目的	事業間の連携、事業全体方針の 合意・調整
開催頻度	3回
想定議論 事項	✓ 各事業の検討状況報告 ✓ プロモーション・イベントに関する 事業の方針検討・合意 ✓ 次年度以降の事業の方向性 協議 等
参加者	全委員

官民連携調整会議で
決めた方針を基に
実現に向けた具体策を検討

具体部分まで検討しつつ
合意形成できるサイクルを設計

分科会で決めた具体案を
官民連携調整会議で共有し、
横断的な連携等を打診

分科会		
各事業テーマへの関連性が高い官民連携調整会議委員を集め 各事業の実現に向けた具体施策・手法を議論		
 教育・学習 にぎわい創出 プロモーション		 環境整備
目的	具体案の検討を経て、 参加者で連携し 実行まで推進する	本事業の実現に向けた 整備の方向性を検討する
開催頻度	2か月に1～2回程度*1	随時
想定議論 事項	✓ 実施コンテンツの検討 ✓ 実施場所・時期の調整 等	✓ 関係者の洗い出し ✓ 課題のつぶし込み ✓ 事業計画・スケジュール の作成 等
参加者	各事業テーマに関連する委員又はその関係者	

*1参加者がおおむね同一のため、併催を想定

官民連携調整会議は以下19組織のメンバーで構成されます。分科会については、原則として「○」が付いているテーマへの参加をご依頼いたします

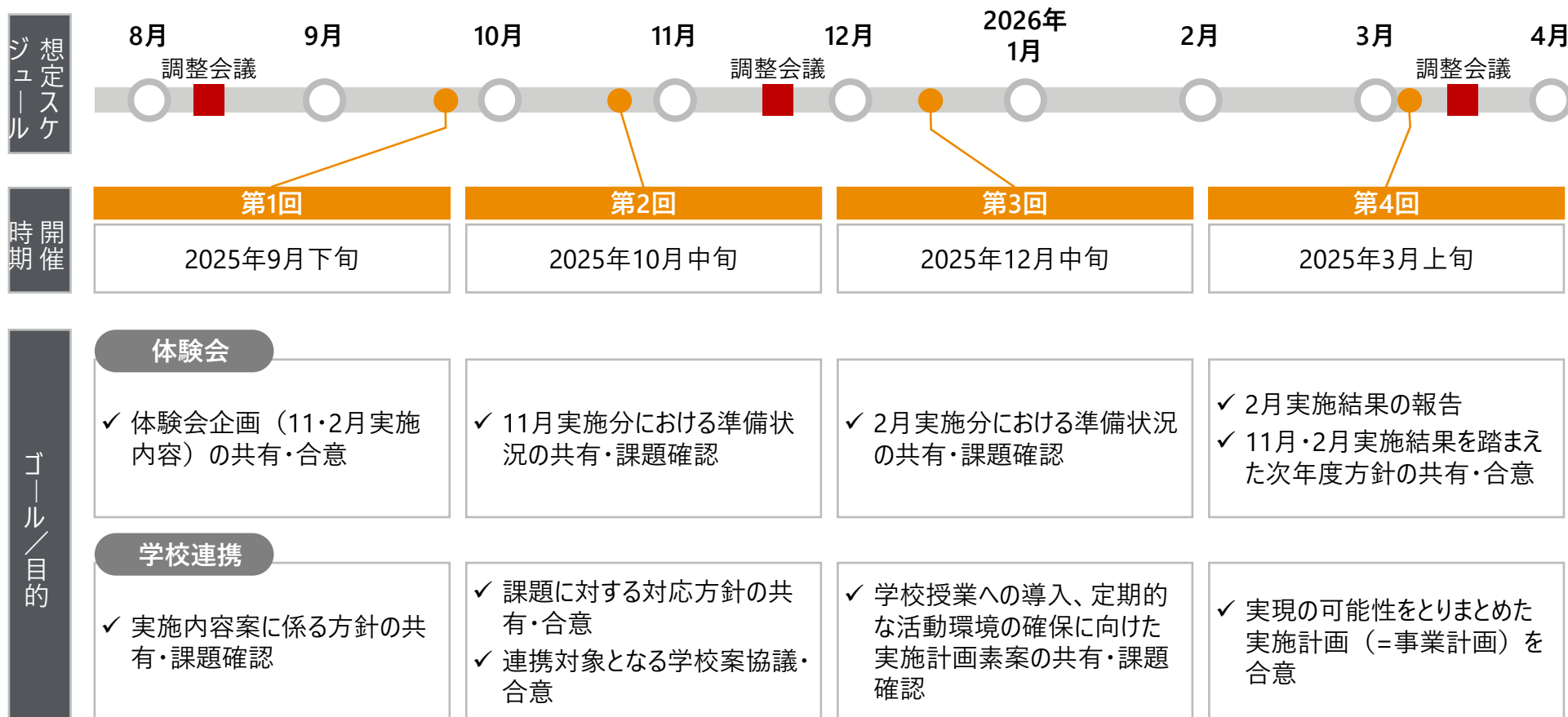
官民連携調整会議／分科会の参加者一覧

#	カテゴリ	連携調整会議委員	分科会テーマ			
			教育・学習	プロモーション	賑わい創出	環境整備
1	官	龍ヶ崎市総合政策部：次長		○	必要に応じて適宜参集	
2	官	龍ヶ崎市総務部：次長				
3	官	龍ヶ崎市福祉部：次長	○			
4	官	龍ヶ崎市健康スポーツ部：次長	○	○		
5	官	龍ヶ崎市市民経済部：次長		○		
6	官	龍ヶ崎市都市整備部：次長		○		
7	官	龍ヶ崎市教育委員会事務局：次長	○			
8	学	流通経済大学	○			
9	学	龍ヶ崎市学校長会	○			
10	産	龍ヶ崎市商工会		○		
11	産	龍ヶ崎市観光物産協会		○		
12	労	(一社)竜ヶ崎青年会議所		○		
13	産	たつのこまちづくりパートナーズ	○			
14	産	NPO法人クラブ・ドラゴンズ	○			
15	金	(株)常陽銀行				
16	産	関東鉄道(株)		○		
17	産	(公社)茨城県山岳連盟	○			
18	産	(株)スポーツビズ	○	○		
19	産	AKIYO's COMPANY(株)	○	○		

※事業進捗に応じて、分科会の開催回数、参加メンバーは調整いたします

教育・学習事業の分科会におけるゴールは以下の想定です。
事業進捗に応じて、分科会の開催回数、参加メンバーは調整となります

教育・学習事業の分科会におけるゴール



3.アクションの詳細ご共有

「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の実現に向けて必要な10のアクションについて、 今年度は「7 アスリート支援」以外の9アクションが取組対象です

アクションごとのロードマップ

テーマ	アクション	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降
①教育・学習	1 学校連携	連携協議・調整	一部連携	連携拡充
	2 体験会開催	企画・検討	体験会開催	体験会(開催数・年代の拡充)
②にぎわい創出	3 大会の誘致・開催	誘致	企画・開催	企画・開催
③産業振興	4 地域の名物等と連携		大会との連携	大会との連携
			制度・連携検討	連携・制度運用
④プロモーション	5 市内向けプロモーション	方針検討	コンテンツ作成・発信	
	6 市外向けプロモーション	方針検討	コンテンツ作成・発信	
⑤競技者支援	7 アスリート支援		方針検討	制度運用
⑥環境整備	8 スポーツライミング環境整備	施設・拠点方針検討	検討結果に応じて実施	
	9 人材確保		人材要件の検討・募集	採用
	10 資金調達	制度検討	制度運用	
			企業版ふるさと納税確保	

凡例： 検討・企画 実施

教育機関等と連携してスポーツライミングの体験・学びの機会を創出するとともに、意欲の高い子どもが練習できる環境づくりに取り組みます

アクション【1】学校連携

施策概要	教育機関等におけるスポーツライミングの体験・学習の機会を創出します。(授業導入・キャリア教育・ウォール設置・定期的な練習会等)
目的	スポーツライミングの普及促進を図るとともに、多様なスポーツ体験の機会を提供します。また、意欲の高い子どもの活動機会の確保に取り組みます。
関係者と役割	- 龍ヶ崎市 教育機関等との連携施策検討・調整 - 教育委員会・小中学校 年間を通じた体験・学習機会の設計及び体験場所の検討 - スポーツライミング関係団体等 学校での体験会・練習会の実施、キャリア教育等の講師 - 指定管理者 たつのこアリーナでの体験会受入
令和7年度以降 取り組む内容	- 教育機関におけるスポーツライミング体験やキャリア教育の授業等への機会創出 - スポーツライミング体験場所の確保に向けた検討(ハード設置/アリーナ訪問) - 体験指導人材・キャリア教育人材の確保 - 定期的に練習が可能となる場所の検討 - 施設保有自治体や民間ジムとの連携検討
施策イメージ	
■ 教育機関や就学前教育・保育施設等と連携し、子どもたちがスポーツライミングに触れることができる機会の創出を図ります。 ■ 意欲の高い子どもが定期的に練習できる環境を整備します。 <実施内容案> 教育機関等と①②の実現の可能性について検討し、目的の達成及び子どもの体力向上や健全な成長につながる仕組みや環境を設計します。 ① 授業・放課後等でのスポーツライミングの体験・学習機会の創出 ② 定期的に練習が可能な機会や制度(地域クラブ活動化)等の確立 ①スポーツライミング体験・学習 が可能な機会・場所の創出  体育の授業 での体験 校内での ウォール設置 キャリア教育 の授業 ②定期的に練習可能な機会の創出  場所 の確保 実行体制 スキームの 検討 指導人員 の確保 収益・コスト ・コスト：体験会開催費、指導者・キャリア教育講師等費	

学校連携では、スポーツライミングの興味を湧かせる体験機会と、興味を持った子どもが競技力を高められる機会／制度を整えることを目指します

学校連携における施策案

目指すべき姿

- ✓ 龍ヶ崎市に住む全子どもが、スポーツライミングを体験する機会がある
- ✓ スポーツライミングに興味を湧いた子が、定期的に練習できる環境が整っている

実施施策案

■ 基本構想を踏まえ実施施策案について分科会にて検討を進めます

①授業・放課後等でのスポーツライミングの体験・学習機会の創出

学校と連携しスポーツライミングに親しむ機会を増加させる

- 授業でのスポーツライミング体験の導入
- 学校内へのウォール設置
※一部学校へは肋木を活用した取り組みを開始予定
- キャリア教育授業へのスポーツライミングの活用

②定期的に練習が可能な機会や制度(地域クラブ活動化)等の確立

施策を通して興味を持った人が、継続的に練習し将来的な選手を目指すことができる環境の構築を目指す

- 練習場所の確保
- 実行体制スキームの検討
- 指導人員の確保

“いつ”・“どこで”・“誰が”・“何を”行っていくのか検討する

今年度のゴール

分科会の意見や想定される課題と対応方針を踏まえ、
目的・主体・場所・時期・実施内容を整理した計画案を策定する

学校連携においては今年度で、将来的に目指す姿のすり合わせ 次年度以降の運用を見据えた計画の策定や関係者調整を行います

学校連携の進め方

目的

- スポーツライミングに興味を持った人が定期的に練習ができるような場所と機会を設けるため、ハード・ソフト両面での検討を進め、関係者間の調整及び次年度以降でのスタートを見据えた計画を策定する。

① 検討体制

分科会にて意見交換・調整

学校側との連携・調整

教育委員会



環境面の連携・調整

野口氏

施設関係者

アプローチ

施策案検討
7月～8月

- 学校連携施策素案の作成

課題確認
計画策定
9月～12月

- 施策案を踏まえ、26年4月以降の実施に向けた実施計画を作成
- 分科会にて計画の実行にあたっての課題整理や調整を実施
- 小中学校にて整える環境・機会について、将来的に目指す姿を共通認識化

計画最終化
1月～3月

- 計画の最終化を行う
- 課題に対する対応を行う

4. 将来的に目指す姿に関する協議

市としては、市内学校の体育授業にスポーツクライミング体験がある状態と地域クラブが持続的に存在する状態を理想と捉え、実現手法を模索したいと考えています

学校連携において目指す姿

①体験・学習機会の創出

理想像

全児童に対する体験機会を提供し
スポーツクライミングに関心を持つ市民を増やす



②定期的に練習が可能な機会や制度等の確立

理想像

スポーツクライミングの競技力を高めたい生徒が
可能な限り気軽に練習できる環境を作る

実現パターン①：市内校を特設ウォールが巡回 ※初期目標

■ 想定運用方法

- ✓ 各校による受入希望期間を踏まえ、前年度中に巡回計画を策定
- ✓ 特設ウォールは事業側リソースを用いて移動・設置

■ 想定活用方法

- ✓ 各クラス、体育授業1コマで体験
※講習を受けた先生による指導が理想

実現パターン②：学校への常設型

■ 想定運用方法

- ✓ 学校にある一遊具として、各校が授業、クラブ活動などに活用

■ 想定活用方法

- ✓ 体育授業でのサーキットトレーニング
→ローテーションを回せば、全生徒が体験可能
- ✓ 自由時間／クラブ活動での利用

一定のニーズがあると確認できた場合
常設に向けた調整も実施

実現パターン①：「直営型」地域クラブ活動

- ✓ 中学生の身体能力でも満足に体験できるクライミングウォールが必要となり、市内学校での設立に向けた調整が必要

実現パターン②：「既存団体運営型」地域クラブ活動 ※目標

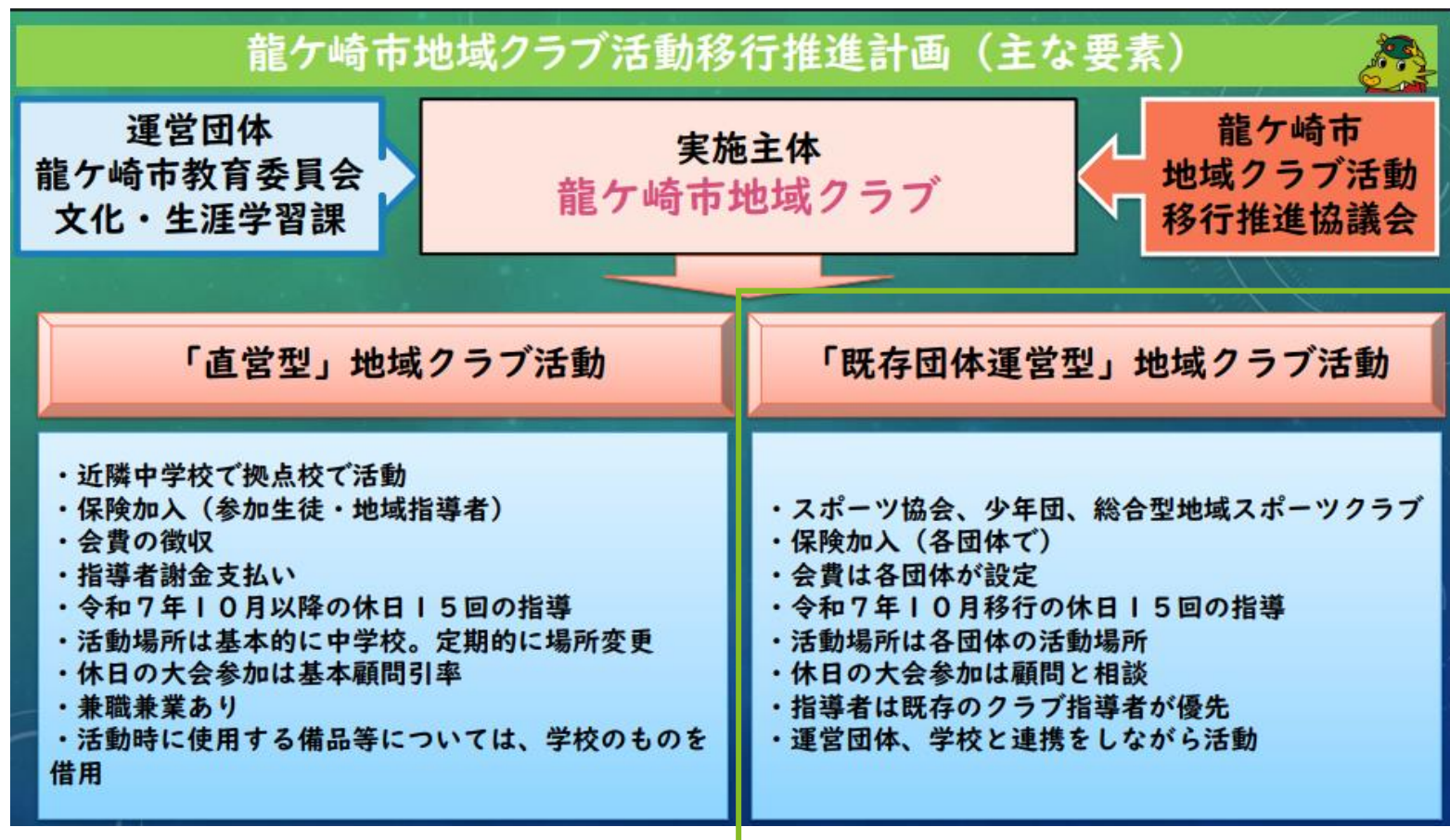
- ✓ 現在も市内にスクールが存在しているものの、ウォールの難易度が低く、時間帯も児童・学生が参加し辛い状況
→市内での、よりレベルの高いウォールの設立と、市の規則を踏まえた活動計画を有するクラブ（小学生参加も要検討）が必要

長野県松本市地域スポーツクライミング部の例

- 実現方法②によって実現
- 定員10名程度
- 月額8,800円（税込）
- 週1／1時間のスクール＋施設使い放題
- 指導者2名（JSPOスポーツクライミングコーチ1所有）

スポーツクライミング部を設立する場合、「既存団体運営型」が望ましいと考えています

参考) 推進計画より抜粋



【要確認】

- ✓ ニューライフアリーナで現在行っているクラブ活動が、当活動として認定させる動きの実現可能性／懸念点

クライミング部を立ち上げる場合はこちらになる想定

スポーツライミングの魅力発信と中学生が満足に練習できる練習環境の構築を行った後、その環境を持続的に維持できるスキーム・仕組みを検討していく必要があります

定期的な練習環境整備に向けた考え方

②定期的に練習が可能な機会や制度(地域クラブ活動化)等の確立

想定される検討ステップ		主要な論点	
①実現性・ニーズ調査	✓ 位置づけの整理 ✓ 地域移行化の現状を踏まえた検討方針の合意（他部との平等性、金額等） ✓ 生徒／学校のニーズ把握	ヒト	■ 指導者の確保 ■ 学校側の役務整理 ■ 参加者の確保 →先日学校側で行ったアンケートでは、スポーツライミングを部活動として行いたいと答えた生徒無し
②実施スキームの策定	✓ 各関係者の役務整理 ✓ 右記論点の潰しこみ	モノ	■ 練習場所 ■ 練習場所の維持管理手法 ■ 練習に必要な備品の確保・管理方法
③活動計画の策定	✓ 既存のガイドラインに則った活動計画の策定	カネ	■ 活動費の財源（部費、寄付等）
④周知	✓ 生徒／生徒保護者に対する周知	情報	■ レポートライン ■ 活動周知・勧誘方法 ■ 大会企画／開催方法

5. 令和8年度実施内容に関する協議

次年度は、希望する数校を対象にした体験会を開催したく、 実現方法について協議させてください

2026年度の体験会の概要

体験会開催概要

希望する学校の授業1~2コマ分を借り、初心者向けの体験会を開催

目的

- ✓ 市内の子どもにスポーツクライミングの魅力を認識してもらい、体験／応援意欲を促進する
- ✓ 実用性の伴った目指す姿を実現するために、子ども達のニーズを把握する

参加者

- <対象者>
 - ✓ 対象校における小学3～6年生の全クラス
- <指導者>
 - ✓ たつのこアリーナ職員 or 外部クライマー

実施時期

2026年10～12月ごろ

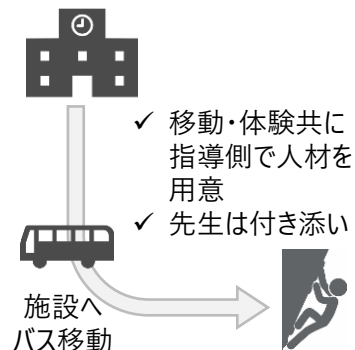
対象校

最大3校

実施手法

学校側の意見も伺い、以下パターンのうち実現できる手法で準備・開催

実現パターン①：たつのこアリーナに移動して、体験会開催



メリット／デメリット

- (+) 同時に登れる人数がより多い
- (+) 1～2回体験したことがある生徒でも十分に楽しむことができる
- (-) 生徒誘導にあたる人的コストと、バス移動による金銭的成本が発生する。当該コストが対象クラス分発生する
- (-) 移動時間込みとなるため、2コマ分の授業時間を確保する必要がある

実現パターン②：学校へ特設ウォールを持ち込み、体験会開催

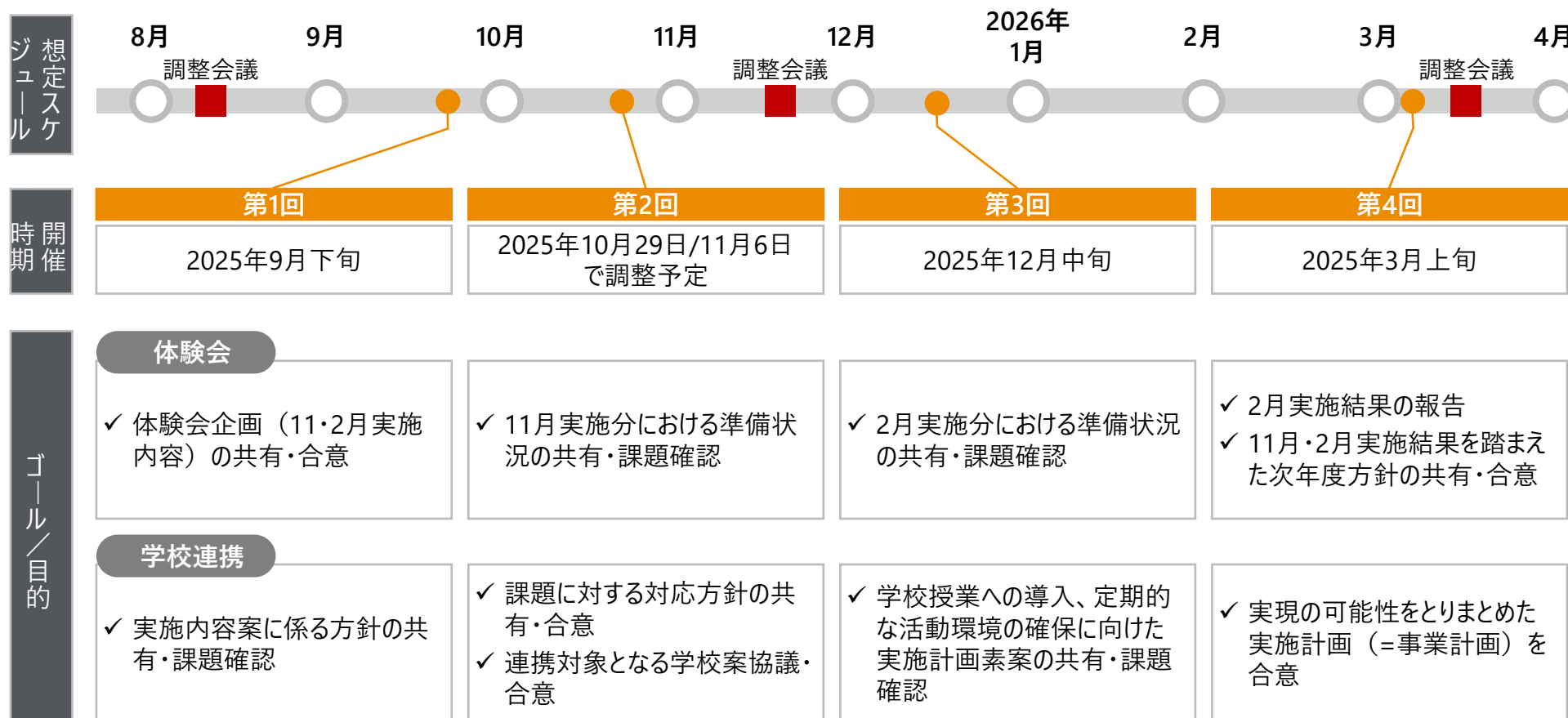


メリット／デメリット

- (+) 目指す姿に近い環境で体験会を開催でき、今後発生しうる課題を把握しやすい
- (+) 生徒移動に係る人的・金銭的成本がない／先生の負担も少ない
- (-) 特設ウォールを一定期間据え置きできるスペースが必要になる
- (-) 体験会以外の時間での利用ルールを定める必要がある
- (-) ウォール設置の人員・期間が要る

教育・学習事業の分科会におけるゴールは以下の想定です。 事業進捗に応じて、分科会の開催回数、参加メンバーは調整となります

教育・学習事業の分科会におけるゴール



次回の分科会に関して、以下の候補日時のご都合を確認してください
分科会：10月29日又は11月6日
調整会議：11/18で開催予定